

夢・いっぽい

第7号



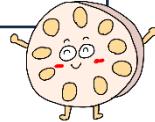
令和7年11月4日



○経営方針 あいさつとありがとうで あったかい学校に

～ 子どもと向き合い、家庭に寄り添い、地域とともにある学校をめざして ～
【スローガン】「大好きな学校に・大好きな家庭に・大好きな地域に」

道草を食う



朝夕の肌寒い空気と朝露、どこからともなく漂ってくるキンモクセイの香りに、遅ればせながら秋の訪れを感じるようになりました。子どもたちも2学期の折り返しを迎えて、深まりゆく秋とともに日々たくましく成長しています。

さて、毎朝交差点に立って子どもたちに声をかけていますが、自分からあいさつをしてくれたり、お辞儀をしてくれたりする子どもが増え、大変嬉しく思っています。中には、笑顔で応えてくれる子やお礼を言ってくれる子、労いの言葉をかけてくれる子もいて、私の心に癒しと活力を与えてくれています。

また、1年生の子が道端で摘んだ花を渡してくれるおかげで校長室前の廊下は、いつも愛らしい花で彩られています。



最近は車に頼って、めっきり歩かなくなってしまった私ですが、自転車に乗ったり、歩いたりしたときは、目に映る景色や肌で感じる日差しや風、動植物の鳴き声や匂いを体全体で感じることができます。今は大人も子どもも忙しく、ゆっくりと歩いている暇はないかもしれません、歩くことで得られる気づきや学びは、感性や知性を磨くとともに健康な心と体を育みます。思い起こせば、歩くのが当たり前だった私の小学生時代は登下校中に草花や実で遊び、虫や魚を捕まえ、友達とじやれ合いながら行き来していました。叱られたことも数知れませんが、季節を感じ、自然を感じ、遊びを通して様々な知恵と技能、体力を身に付けることができました。そして、その経験はふるさとの原風景として、今でも心に深く刻まれています。（ちなみに私の母校は平田小学校です）

慌ただしく流れる日常と日増しに高まる防災防犯意識の高まりから、いつしか「道草を食う」という言葉も使われなくなり、行き帰りの道中で起こる小さな発見や冒険を体験できる子どもが本当に少なくなっています。しかし、子ども時代にしかできない経験を、人生の素地となるこの時期に積み重ねることは、豊かな人間形成を育む上で非常に重要な営みだと捉えています。道端に咲く草花に思いを寄せる純朴な子どもが、これから先も絶えることなく存在し続けてほしいと願う今日この頃です。

10月の『陽だまり』



■ 屋休みに算数の補充学習を行う「九九道場」に学校運営協議会委員の方も参加し、基礎学力の定着に向けて取り組んでくださっています。

■ 岩国工業高校の機械科の生徒が、6年生を対象に、プログラミングの出前授業をしてくれました。

